

第7回 伊賀市中心市街地活性化基本計画策定委員会 議事要旨

- 日 時 : 2024 (令和6) 年 2 月 27 日 (火) 14 : 00 ~ 16 : 00
- 場 所 : 伊賀市役所 501 会議室
- 出席者 : 久隆浩委員長、菊野善久副委員長、藪本弘子委員、福永真司委員、山本禎昭委員、松井隆昇委員、南徹雄委員、濱津享助委員、木宮康介委員、平井俊圭委員、豊福裕二委員、杉山美佐委員、竹島弘美委員、濱崎久美委員、宮崎寿委員
(欠席 : 中村忠明委員)
- 事務局 : 産業振興部 堀川次長、中心市街地推進課 内田主幹、乾主任、藤山
伊賀市中心市街地活性化協議会 山崎事務局長、上野商工会議所 佐治事務局長

1. 開会

2. あいさつ

久隆浩委員長よりあいさつ

3. 協議事項

(1) 目標指標の設定について

- ・ 伊賀市内のソフト資源について、「ぼちっと伊賀」というホームページに一覧が記載されている。ボランティア活動や社会資源を検索できる仕組みであり、中心市街地に絞って検索することもできる。これらの資源は生活上の課題を解決する資源であり、暮らしやすさに直結すると思う。これらを有機的に表現できないかと考える。また、中心市街地の45歳未満の居住人口が目標指標となっているが、大企業では50歳以上をうまくリタイアさせることが課題となっており、50代の地方移住のニーズも高いことから、50歳以上の方々をターゲットにすることに検討の余地があるのではないかと考える。さらに、目標指標については、5年間の計画期間の中間時点で見直す必要があると考える。若者会議のメンバーなどに協力を依頼して、目標管理や進捗調査、新たな事業提言や事業の実行なども視野に入れたうえで、目標設定の見直しを行っていただきたい。(委員)
 - 目標設定の中間時点における見直しについて、毎年フォローアップという形で対応させていただいており、認定計画となれば、内閣府にフォローアップに関する数値や進捗状況の共有も行っていく。目標の見直しや、そのための事業追加なども毎年ローリングのような形で行う。認定された計画内容が最終になるわけではなく、その都度内容の変更は行う予定である。(事務局)
 - 目標指標「中心市街地における居住人口の社会増減数」については、毎年評価する際は全体の数のみではなく、年代別のデータも見ながら評価するというので先ほどの意見内容を達成できると思う。また、事業に関する検討復活で、これらの情報をどう上手く活用していくかという戦略も考えていければと思う。今後取組を

進めていく際にご検討いただきたい。(委員長)

- ・ 目標指標「中心市街地の歩行者等通行量」において、6つの測定箇所を挙げているが、南部地区は銀座中央駐車場前の一箇所だけとなっている。例えば、茅町駅前を測定箇所に含めるのはどうか。市交通政策課によって茅町駅の整備が進んでおり、今年度に自転車置き場の整備、来年度あたりにトイレの改修が完了する予定である。高校生も通学などで茅町駅から伊賀鉄道を利用するため、茅町駅前の歩行者等通行量の調査もご検討いただきたい。

(委員)

- 歩行者等通行量は、これまでは目視でカウントしていたが、来年度からビックデータを活用することで、様々な箇所の数値が把握できるようになる。また、事業の効果を測定するという意味合いで測定箇所を定めている。茅町駅前を測定箇所として定めることはできるが、何の事業によってその効果が挙げたのかを把握する必要がある。そのため、南部地区の調査地点を追加する場合は、南部地区に関する事業を実施することも併せて考えていただきたい。(事務局)
- 先ほどの意見は、エリアのバランスも考えながら、測定箇所も考えてほしいということだと思う。従来と比較し、今回は数値の測定方法も変わり、簡便になると考える。様々なことを考えながら、測定箇所についてご検討いただきたい。(委員長)

(2) 目標達成に資する事業について

- ・ 忍者体験施設は市もかなり力を入れており、集客力があると思う。一方、ふれあいプラザは、スーパーマーケットの誘致に苦戦していると伺っている。1階スペースの有効活用については、事業主体だけではなく、地域として何か考える必要があるのではないか。このあたりについて何か事業者から聞かれているか。(委員)
- 中心市街地活性化協議会において事業者の方から直接説明を受けたが、計画通り進めているという報告を受けている。1階部分は検討中とのことで、詳細な内容については聞いていない。情報があれば共有させていただく。(事務局)
- 障がい者の作業所の産品を集めた売り場を検討しており、これらもうまく活用してほしいと考える。(委員)
- 民間事業も含めた計画であるため、民間事業者と協力できるところは一緒に取り組んでいきたい。(事務局)
- 1つの事業を動かすのに、一定程度の費用が掛かるものとそうでないものがある。今後は、費用対効果の観点からも提案いただきたい。一番良いのは、費用がかからず効果が高いものである。ふれあいプラザの1階に入る店舗については、ビジネスとして回していくことになるため、先ほどの福祉事業所の産品を売ることや、マルシェなどの手作り品の持ち寄りによる売り場スペースを作ること、JAとタイアップした直売所を作ることなど、様々な方々の手をお借りしながらやっていく手法が考えられる。これらの実施により、地域の方々の生活利便性を上げる方法もあると思う。さらに、オープンスペースにキッチンカーやテントを張って店を出すなど、お金をかけない方法で、にぎわいづくりや生活利便性の向上を図ることも可能で

ある。必ずしもきちんとした建物の中でビジネスを回すだけではなく、みんなで協力しながら生活利便性の向上や魅力づくりの取組について考えていただくと嬉しい。お金をかけない、費用対効果の高い取組のアイデアを出し合いながら事業を進めていきたい。(委員長)

- ・ 「次世代モビリティ導入実証実験事業」について、どの場所で何をするのかを具体的に教えていただきたい。(委員)
 - 内容について、例えば自転車や電動自転車など用いて城下町の回遊性の向上を図ることなど、庁内の作業部会において検討を進めている。場所はまだ決まっていないが、基本的には中心市街地、特に丸之内周辺から地域内に回遊するための方策を検討している。(事務局)
 - 例えば、私が輪島を訪れた際は、ゴルフ場のカートのようなモビリティで足の不自由な観光客を運んだりしていた。最近は、様々なタイプの移動手段が出てきているため、うまく費用対効果を考えながら導入していただければ良いと考える。また、モビリティそのものが集客装置になるため、実験的に先端性の高いモビリティを導入して集客することも考えていただければ嬉しい。(委員長)
 - シェアサイクルが伊賀らしいと考えている。坂が少ないまちであるため、自転車の導入等によるスモールスタートを考えている。(事務局)
 - レンタサイクルは大体どこの観光地でも整備されているため、導入をご検討いただきたい。(委員)
 - 「次世代」というところに関心を得た。先端的なものを取り入れていただければ嬉しい。私は、本日はカーシェアを移動手段として用いているが、スマホ1つで予約、開錠ができるようになっている。同じレンタサイクルでも、次世代型のレンタサイクルの導入などを検討いただけたら嬉しい。また、伊賀鉄道の交通系 IC カードを利用したレンタサイクルの割引など、連動する仕掛けを図るなど、公共交通機関を使いながら、伊賀市内の様々な場所に行ける仕掛けも展開できると考える。このようなソフト的な仕掛けも考えていければと思う。(委員長)
 - 電動キックボードなど、無免許で運転できる時速 20 km以下のモビリティもある。特に高齢者の割合は緩やかに増え続けているため、足の不自由な方も移動できるようなモビリティという観点からも検討いただきたい。(委員)
 - 電動キックボードは若者向きかと思っていれば、足の不自由なお坊さんが使っていた。お年寄りの方に案外いいのではと考える。(委員)
- ・ 市街地に観光客の興味を引く何かがない限りは、上野城から市街地に回遊してもらえないと考える。また、上野城から市街地へ行くには、踏切を渡るか、地下道を利用するという2パターンがあると思う。しかし、踏切は車いすの方が通りにくく、地下道は階段を通る必要があり、降りることが難しい方もいる。多くの方に配慮した整備が必要であると考え。さらに、観光客に行先の方向性を周知できるようなまちづくりを行っていただきたい。(委員)
 - 交通関係の仕組みに、MaaS がある。例えば、乗換案内アプリが進化したものがある

る。そこに観光情報を入れると、どのルートでどの乗り物を使うと最短でいけるのかをすぐに把握できることが MaaS の良いところ。そのあたりも組み合わせてやっていただけたらと思う。また、普通の乗り換えアプリでも、時間が早いルート、坂道が少ないルート、雨に濡れにくいルートなども検索できる。この観点でいえば、障がい者に優しいルートなども選べるようになる。デジタル田園都市国家構想交付金を使うのであれば、デジタル技術を取り入れて便利になっていけばよいと考える。(委員長)

- MaaS は、伊賀市の交通計画にも位置付けられている。他の計画にあげられている事業は、中活計画にも積極的に取り込んで進めていただきたい。(委員)

4. 報告事項

(1) 中心市街地活性化協議会からの意見書・パブリックコメントでの意見について

- ・ 資料「パブリックコメント意見一覧」の番号 6 の意見について、まちなかを移動していただく手立てとして、スローモビリティも考えられるが、せっかく今動いているコミュニティバス「にんまる」があるのであれば、それを活用して観光地を回る特別なツアーがあっても良いと思う。(委員)
 - 現段階では、伊賀市ではそのようなことは考えていないのか。(委員長)
 - 交通政策課と「にんまる」について話をしており、乗客が増えたことは伺っているが、「にんまる」の活用に関する議論は出来ていない。(事務局)
 - 金沢市では、小さなバスをうまく活用しながら、観光客も地域の方も利用できるようにしている。商店街の真ん中をバスが走ったりするため、観光客にとっては面白いと考える。(委員長)
- ・ 青山にはミュージアムがたくさんあるなど、周辺地域には観光施設が多くあるため、中心市街地だけではなく、周遊として山並みのハイウェイにバスを配車したらどうか。道路改良などは費用がかかるため、既存の道路を使った周遊ができればよいと考える。(委員)
 - 観光客は、周辺の魅力的なところも巡りながら周遊していく。伊賀市全体や南山城村、山添村なども含めて観光をつなげていただければと思う。その上で、上野の観光客を増やしていくことも大切であり、伊賀市全体の活性化の中で、上野を活性化していくという発想も重要だと考えている。南山城の道の駅は多くの人が訪れているため、そこからどうやって上野に来てもらうか等を考えるもの面白いと考える。(委員長)
- ・ 中心市街地活性化協議会の意見書にある、中心市街地活性化基本計画の中間案に対する意見に対して、従来と同じような返答では、中心市街地活性化協議会の方々の士気が下がる。いくつかの意見内容は第 3 期計画に反映していただきたい。(委員)
 - 今後の検討になると考える。いただいた意見を全て否定することはもちろんない。例えば、基本計画への記載は厳しいかもしれないが、今後の検討とさせていただきたい旨の回答は記載できると考える。具体的な内容については今後検討させていただきたい。(事務局)

- 曙保育園の跡地はどうなったのか。(委員)
- 曙保育園の跡地は、随時、売却先を募集している。(事務局)
- 子どものための公園は南部地区にはない。西部地区はふたば幼稚園の跡地が公園になっているが、例えば、曙保育園の跡地を公園にさせていただくのはどうか。若い世代が増えるためにはこのようなものが必要だと考える。ご検討いただきたい。(委員)
- ・ 中心市街地活性化協議会の意見書に記載してある美術館・博物館構想は、具体化しつつあると思う。この事項を基本計画に記載する方が、具体化においてプラスになるのであれば、記載したほうが良いと考える。また、周辺地域の活性化については、コリドールロードをつかって、自転車で周遊する取組が始まっていると思う。このようなものも周辺地域の活性化の取組としてあげられるのではないかと考える。(委員)
 - 現在、美術館・博物館の基本構想の中間案がパブリックコメントとして発信されている。内容としては候補地について書かれているが、現段階では中心市街地内に建設することになっている。担当部署と協議をさせていただいており、パブリックコメントが終了する時点で、基本計画に記載する方向で協議を進めているところである。現図書館の跡地についても、検討を始めることについては基本計画に記載することになるかと思うが、具体的な内容を年度内に決められるかどうかは未定である。また、コリドールロードに関しては、「伊賀いち」というサイクリングコースで自転車のイベントをやっていることを存じ上げている。例えば、サイクリストが駅前や上野城をスタート地点とするなどのイベントがあれば、費用対効果の高い事業として取り上げることは可能だと考える。(事務局)
 - 公共の集客施設をいかに魅力的にするかについては、中心市街地の活性化としてとても重要だと思っている。例えば、大阪府茨木市のおにクルは 2 ヶ月で来訪者が 50 万人を超える見込みになっている。市民利用が増えることで、市民の足が中心市街地に向いてくるため、周辺での飲食や買い物も増加することにつながる。また、おにクルの文化ホールは 4 月にオープンであるため、さらに来訪者数は増えることを期待している。伊賀にも美術館、博物館ができるため、展示するコンテンツが魅力的なものになればと考える。構想の中で、これは見てほしいといった魅力的なコンテンツはあるのか。(委員長)
 - 構想の中では、芭蕉の魅力なども含めた伊賀の歴史文化がコンテンツになると考える。(事務局)
 - おにクルでは、京都芸術大学と連携してアートを取り入れている。具体的には、デジタルアートに取り組んでいる京都芸術大学の山城先生にご協力いただき、子育て支援スペースの子供が遊ぶ場所にプロジェクターを活用したデジタルアートを作っており、子供も遊べるアート作品となっている。伊賀も従来型の美術品を展示するだけでなく、このような体験型の作品も入ればよいと考える。ちなみに、茨木市は JR 総持寺駅において、現代アートのプロデューサーとタイアップして、月替わりで現代アートの作品が並ぶようになっている。色々なアイデアを賜りながら、

様々な空間ができるのではないかと期待している。(委員長)

(2) その他

- ・ 参考資料「第3期計画への掲載事業(案)」について、説明いただきたい。(委員)
 - 掲載事業の整理、事業内容の実施主体、国の支援などを記載している。次回の委員会では目標指標と関連した事業など、より具体的な内容を整理したうえで、示させていただく。(事務局)
 - 具体的な事業内容を提案できる機会はあるのか。(委員)
 - 事業の提案はいつでも受け付けている。民間事業については、中心市街地活性化協議会等を通じてご教示いただけたらと思う。また、伊賀市が実施する事業に関しては随時検討を進めている。(委員)
 - 先ほどのご意見は、伊賀市に実施してほしい事業がある場合は、そのアイデアはいっ届けることができるのかという質問だと思うがいかがか。(委員長)
 - 随時受け付ける予定である。(事務局)
- ・ 事業レベルの表現の仕方、分かりやすさについては課題だと考える。事業名をみてイメージできる事業とそうでない事業がある。どのように事業名を分かりやすくするかについては、今後検討していくべきだと思う。(委員)
 - 例えば人口を増やしていくことについても、住宅の増加や、子育て支援などのサービスの充実化など、いくつかのタイプに整理できると思う。そのあたりをうまく整理しながら書き込んでいくと、より分かりやすくなるのではないか。整理の仕方、書き方の工夫次第で、分かりやすさを向上させることができると考える。また、デジタル機器やアプリ等を使う事業や、市民との協働によるイベント開催の事業など、このような切り口での整理もできると思う。第1、2期計画では、お金をたくさん使ってしっかりとしたものを作っていく事業が表に出ているが、それ以上にソフト系の事業を多く組み込み、市民も一緒にできるスケールの事業を増やしていくことによって、伊賀市を元気にしていくことにつながっていくと考える。そのあたりの見せ方の工夫をお願いしたい。(委員長)
- ・ 伊賀市合併処理浄化槽設置整備事業について、合併処理浄化槽を入れる土地の確保、景観条例との兼ね合いなど、いろんな条件が付帯している。公共の下水道を整備してほしいと考える。また、伊賀信楽古陶館は閉館しているが、商売人さんもいるため復活できたらと思う。歩道の道案内にも伊賀焼のプレートを貼ってもよいと考える。(委員)
- ・ 今後のスケジュールについて、内閣府提出前にどこまで内容を具体化するのかについて教えていただきたい。(委員)
 - 内閣府に向けた提出案を現在進行形で作成している。次回の委員会にて提案させていただいた上で、おそらく5月以降に内閣府に提出し、そこから内閣府と各省庁との協議が始まる予定である。内閣府への提出以降も、事業の追加などの修正を続けていく必要がある。また、9月以降に再度委員会を開催させていただき、認定申請前の協議を行い、11月末の委員会にて最終的な調整をおこなったうえで、予

定では翌年の3月に認定となる。5～8月は策定委員会がない期間となっているが、事業提案の受付や、場合によっては臨時委員会の開催も考えている。(事務局)

- これまでは1つ1つの内容を細切れに議論していたが、来年度はまとまったものを見ながら、最終化に向けた調整をしていくイメージである。(委員長)
- ・ 今回の中間案に対するパブリックコメントの結果への対応はどうするのか。(委員)
 - パブリックコメントに対する回答はホームページにて公表するが、中間案への大きな修正は行わない予定である。(事務局)
 - パブリックコメント以外にも、中心市街地活性化協議会の意見書の内容や、地域に出向いた際に受け賜った意見を踏まえながら、最終提出案に反映できる部分は反映していくことになる。(委員長)
- ・ 内閣府認定に向けては、補助金をもらうのが1つの目標になるかと思う。どんな事業にいくらかけるつもりなのか、もし案のようなものがあれば教えていただきたい。(委員)
 - 中心市街地活性化基本計画は、補助金を取るための計画ではない。内閣府認定が取れなくても、補助金は取れる事業は多くある。例えば、忍者体験施設や新図書館に関する事業は、中心市街地活性化基本計画がなくても補助金は取れている。いかに中心市街地活性化基本計画の中で、事業を実施しながらまちの活性化の進捗管理を進めていくかが肝になる。もちろん補助金も大事であるが、どちらかといえば、歴史ある伝統的な町を守りながら、次世代に繋いでいくためには、ソフト事業でいかに繋いでいくかという部分が重要だと考える。(事務局)
 - 活性化のために必要なものを書き込んでいるため、国からお金が出ないからやめるというものではない。例えば、市が単独でお金を出すことや、市民から寄付を募りながらみんなでお金を出すことなどを通して、必ず実行していくものが事業として入ってくると思う。まずは事業内容をしっかり考えて、その次にお金をどこから確保するのか、といった順番で考えていければいいと思う。(委員長)

5. 今後の予定について

- ・ 第8回委員会 令和6年 4月23日
- ・ 第9回委員会 令和6年 9月24日
- ・ 第10回委員会 令和6年 11月21日

以上